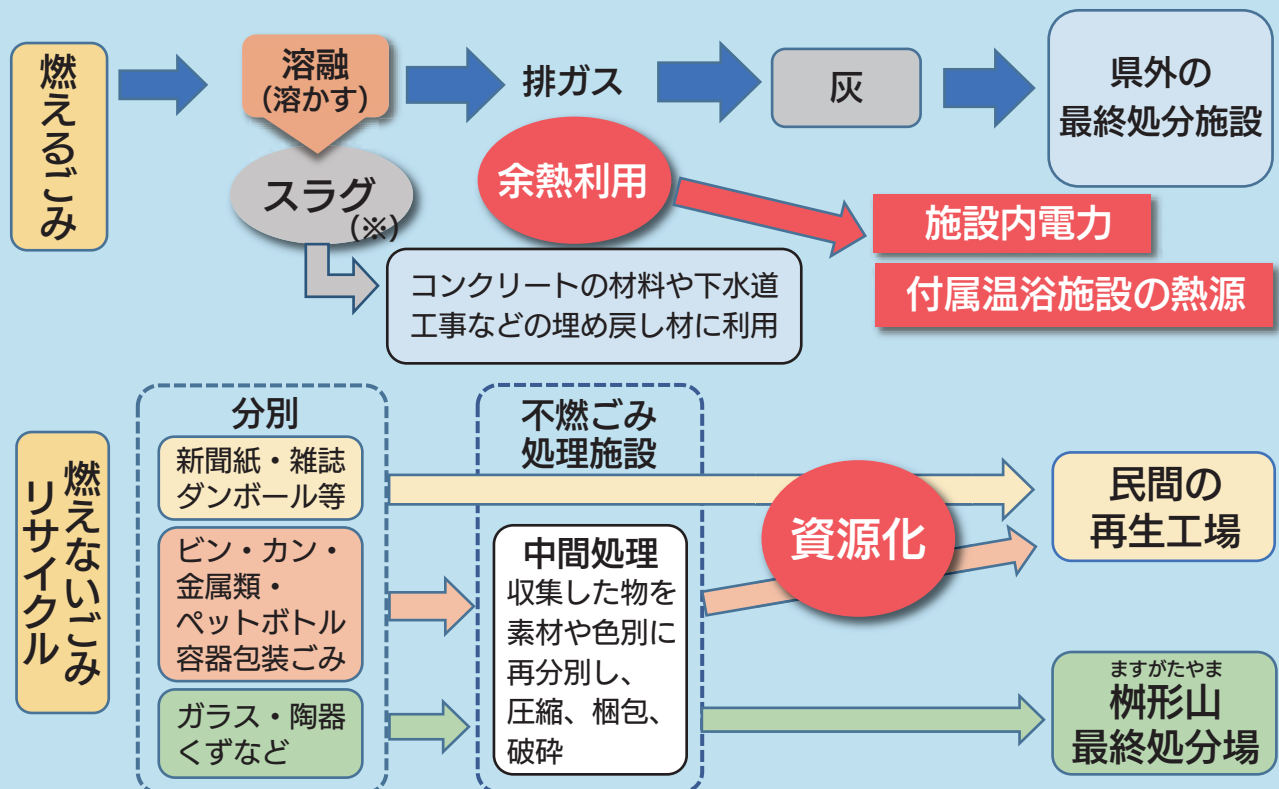


新ごみつつうしん 南魚沼 No.3

【問合せ】新ごみ処理施設整備室 ☎782-0263

新ごみつつうしんNo.2（市報10月1日号に掲載）では、新ごみ処理施設の建設に向けて南魚沼市、魚沼市、湯沢町の2市1町で検討している内容や、施設から発生するエネルギー活用などについて紹介しました。今回は、現在の南魚沼市環境衛生センター〔島新田・上十日町〕に集まったごみの行方、資源化の流れ、ごみ減量化の取り組みなどについて紹介します。

ごみの行方と資源化（環境衛生センター）



(※) スラグとは、高温で焼却灰を溶かしたものを、冷却して固めたもの

ごみ処理施設の整備に向けて

家庭や事業所から排出されたごみを処理するには、多額の経費がかかります。その経費には、指定ごみ袋の売り上げや事業所のごみ処理手数料のほか、多くはみなさんから納めていただいた市税などが充てられています。ごみ処理経費の節減のほか、環境負荷の低減のためには、ごみの減量化や資源化が欠かせません。ごみの減量化や資源化は、ごみを燃やす化石燃料の使用を抑え、燃焼や運搬などによる二酸化炭素の排出を削減するとともに、最終処分場への埋め立て量を減らすことに

つながります。その反面、資源化には高い経費が必要になることや、再資源化物の価格が不安定なことなど、難しい面も持ち合わせています。

新ごみ処理施設の適正な規模、燃焼方式、施設から発生するエネルギーの活用方法などの検討にあたり、ごみの分別方法やリサイクルの最新技術、先進施設の調査・研究を行っています。より良い施設の整備をめざし、今後も積極的にごみの減量化と資源化に取り組んでいきます。

ごみを減量化・資源化することは、ごみ処理経費や環境への負担を減らすことにつながるんじゃないよ

